

4. 芸術・文化施設

◆津山洋学資料館

(1) 施設概要

津山及び美作は、江戸時代の後期から明治の初めにかけて、著名な洋学者を輩出し、我が国の学術発展に大きな業績を残しています。昭和53年3月に開館した当館では、これら郷土の洋学資料を収集・保存し、調査・研究するとともに、公開展示を行っています。平成22年3月、国史跡箕作阮甫旧宅の隣にリニューアルオープンしました。

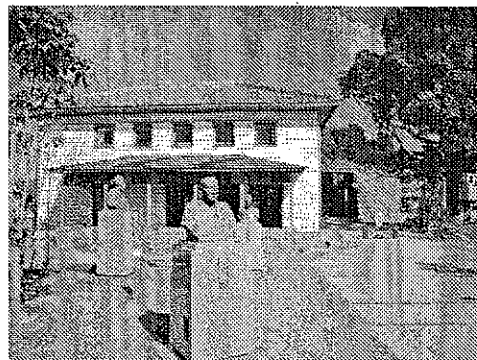
○所在地：津山市西新町5番地

○構造：鉄筋コンクリート造平屋建

○敷地面積：3,487.23㎡

○建築面積：1,401.27㎡

○職員：5名（うち2名嘱託）



(2) 開館時間 午前9時から午後5時まで

（ただし入館は午後4時30分まで）

(3) 休館日 月曜日・祝祭日の翌日・12月27日から

1月4日まで、その他

(4) 入館料 一般300円(240円)／高校・大学生200円(160円)／小・中学生100円(80円)

※()内は30名以上の団体料金

(5) 収蔵資料の概要

区 分	件 数	点 数	区 分	件 数	点 数
文 書	2,885	4,781	写 真	167	221
書 簡	456	459	拓 本	53	78
賞状・辞令・勲記	95	98	研 究 資 料	50	258
書 跡	369	510	遺 稿	49	49
絵 画	55	59	複 製	222	335
医 療 器 具	17	90			
民 俗	145	236	合 計	4,563	7,174

一般・研究図書 1,855冊

(6) 常設展示

区 分	テ ー マ	内 容
プロローグ室	知は海より来たる	知の入口・出島を通して洋学の世界へいざなう
展示室1	人体に隠された科学への扉	蘭学の夜明け（解体新書）と宇田川家三代の業績
榕菴コーナー	マルチ学者の好奇心	宇田川榕菴の幅広く旺盛な好奇心を紹介
展示室2	世界へと開かれていく眼	日本の開国時に活躍する箕作阮甫とその一族
スポット展示・映像コーナー		話題の資料の展示と3種類の映像
展示室3	日本の近代化と津山の洋学者	日本の近代化に貢献した津山の洋学者を紹介
復元展示室	ある医家の調合の間	幕末～明治期の医家の調合の間を再現

◆津山郷土博物館

(1)施設概要

津山を中心とする美作地方の文化財を収集・保管・研究し、その成果を広く一般に公開することを目的としています。建物は昭和8年に竣工した旧津山市庁舎を増改築して、昭和63年4月に開館したものです。平成18年11月9日、国の登録有形文化財になりました。

- ◇所在地 津山市山下92番地
- ◇敷地面積 2,604.30 m²
- ◇延床面積 1,997.12 m²
- ◇構造 鉄筋コンクリート造（地上3階、地下1階）
- ◇職員 5名（うち2名は非常勤嘱託）

(2)開館時間 午前9時から午後5時まで（ただし入館は午後4時30分まで）

(3)休館日 月曜日、祝日の翌日、12月27日から1月4日まで、その他

(4)入館料 一般210円（160円）/高校・大学生150円（120円）

※（ ）内は30名以上の団体料金

(5)収蔵資料

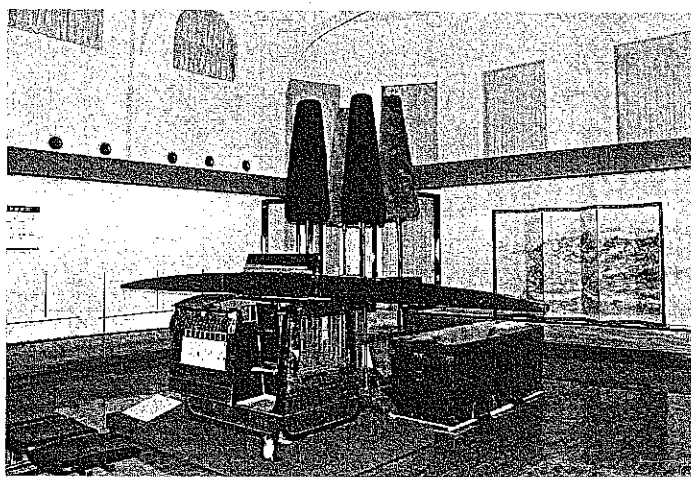
① 化石資料	250点	② 考古資料	662点
③ 文書資料	56,437点	④ 絵図資料	289点
⑤ 生活資料	14点	⑥ 文学資料	1,042点
⑦ 美術・工芸資料	2,127点	⑧ 写真資料	56点
		合計	60,877点

(6)常設展示 「美作の歴史と文化」を統一テーマとし、7つのテーマで、美作の地質時代から現代までの歩みを通史的に展示しています。

テーマ	主な展示資料
I 美作の自然と風土	・パレオパラドキシア骨格復元模型・化石
II 美作のあけぼの	・弥生土器・石器・古墳副葬品・銅鐸・須恵器・埴輪・陶棺
III 古代国家と美作	・硯・墨書土器・木簡（複製）・軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・鍛冶炉・鉄滓・鉄器
IV 武士の争いと宗教	・法然上人行状絵図（複製）・後醍醐天皇綸旨（複製）・勝間田焼・宋銭・毛利輝元書状
V 津山藩と民衆	・津山城復元模型・津山城絵図・津山城本丸瓦・森忠政知行状・大名駕籠
VI 郷土の百年	・立憲自由党加盟簿・立石岐書簡・学校関係資料・尾上柴舟短歌・西東三鬼俳句・美作津山市街図
VII 美作の美術・工芸	・大身槍・江戸一目図屏風（複製）・竜虎図



津山郷土博物館外観



展示風景（江戸一目図屏風・熊毛槍・大名駕籠籠）